

U.S. Indicators

発表日: 2024年1月12日(金)

米国 CPIコアの鈍い低下が継続(12月CPI)

～CPI統計は早期利下げを支持せず～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

消費者物価

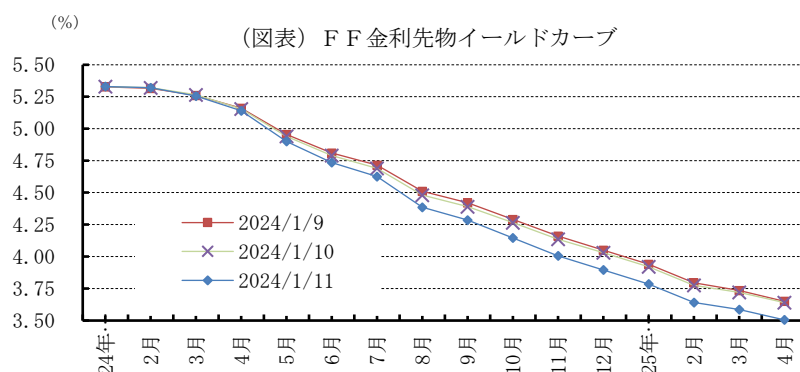
	総合		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	財 コア	サービス コア
	値	(%)	値	(%)	値	値	値	値	値	値	値	値
23/04	+0.368	(+4.9)	+0.409	(+5.5)	+0.6	+0.0	+0.2	+0.3	+1.2	▲0.0	+0.6	+0.4
23/05	+0.124	(+4.0)	+0.436	(+5.3)	▲3.6	+0.2	+0.2	+0.3	▲0.2	+0.1	+0.6	+0.4
23/06	+0.180	(+3.0)	+0.158	(+4.8)	+0.6	+0.1	+0.3	+0.3	+0.2	+0.0	▲0.1	+0.3
23/07	+0.167	(+3.2)	+0.160	(+4.7)	+0.1	+0.2	+0.4	▲0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.3	+0.4
23/08	+0.631	(+3.7)	+0.278	(+4.3)	+5.6	+0.2	+0.3	+0.2	+2.6	+0.2	▲0.1	+0.4
23/09	+0.396	(+3.7)	+0.323	(+4.1)	+1.5	+0.2	+0.6	▲0.8	+0.3	+0.2	▲0.4	+0.6
23/10	+0.045	(+3.2)	+0.227	(+4.0)	▲2.5	+0.3	+0.3	+0.1	▲0.9	+0.3	▲0.1	+0.3
23/11	+0.097	(+3.1)	+0.285	(+4.0)	▲2.3	+0.2	+0.4	▲1.3	▲0.6	+0.6	▲0.3	+0.5
23/12	+0.303	(+3.4)	+0.309	(+3.9)	+0.4	+0.2	+0.4	+0.1	+0.2	+0.6	▲0.0	+0.4

(注) 括弧内は前年同月比

23年12月の消費者物価(総合)は、前月比+0.3%(前月同+0.1%)と上昇し、市場予想中央値+0.2%(筆者予想同+0.1%)を上回った。食品が前月比+0.2%(前月同+0.2%)と同率だったが、ガソリンなどエネルギーが同+0.4%(同▲2.3%)と上昇に転じた。また、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)は同+0.3%(同+0.3%)と市場予想中央値の同+0.3%(筆者予想同+0.2%)と一致した。

前年同月比では、総合が+3.4%(前月+3.1%)と上昇し、市場予想中央値+3.2%(筆者予想+3.1%)を上回った。食品が+2.7%(同+2.9%)と低下した一方、CPIコアが+3.9%(同+4.0%)と低下したものの、市場予想中央値の+3.8%(筆者予想+3.8%)を上回ったほか、エネルギーが▲2.0%(同▲5.4%)と下落幅を縮小した

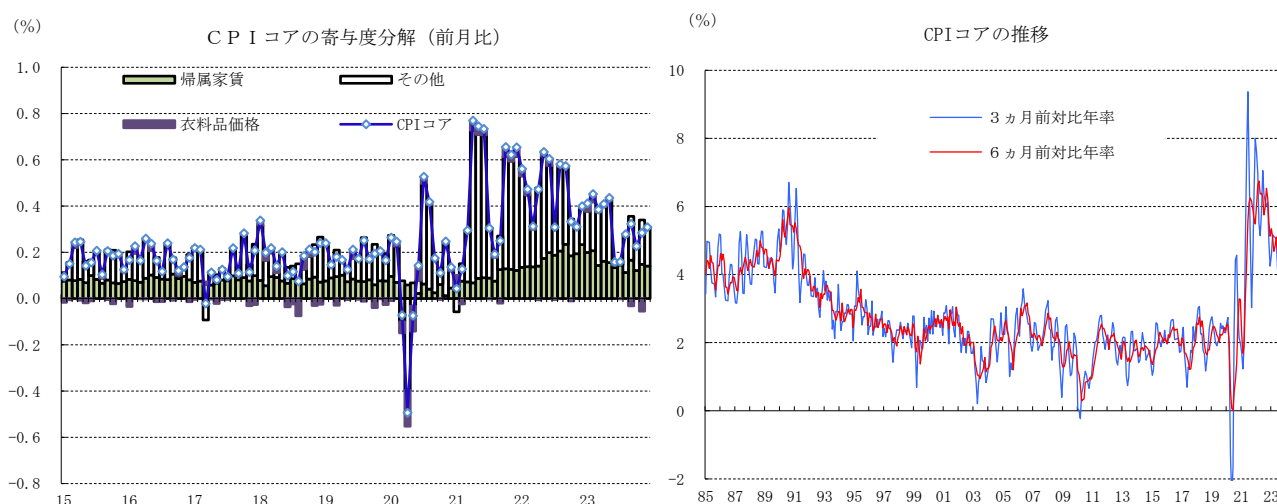
金融市場では、12月のCPI統計が雇用統計に続き、早期利下げを肯定しない内容だったことを受け、金利が全般的に上昇したほか、株価は水準を切り下げた。また、ドルは主要通貨に対して強含んだ。しかし、CPIコアが低下トレンドを維持しており、FOMC参加者の物価見通しに修正を迫る内容ではなかったこと等から、取引時間の終了に向けて、FF先物は利下げ幅の織り込みを拡大した。政策金利予想の影響を受け易い2年国債利回りは、CPI統計公表前の水準を下回って取引を終えた。また、10年国債利回り、主要株価指数、ドルの主要通貨レートは、CPI統計公表前の水準を取り戻した。



CPIコアでは、財コアが前月比▲0.0%（前月同▲0.3%）とマイナス幅を縮小した一方、サービスコアが前月比+0.4%（同+0.5%）と低下した。財では、医療用品、その他財が下落に転じたうえ、余暇商品、情報機器が下落を続けた。また、中古車が低下した。一方、衣料品、新車、教材、アルコール飲料が上昇に転じたほか、自動車部品が上昇した。なお、家庭用耐久品・消耗品は変わらずとなった。

サービスでは、ホテル、航空運賃が上昇に転じたうえ、病院・関連サービス、自動車保険、余暇サービスが上昇した。さらに、帰属家賃、賃料は高い伸びを続けた。一方、レンタカー、自動車メンテナンス・修理が下落したほか、専門医療、インターネットサービス、その他個人向けサービスが低下した。

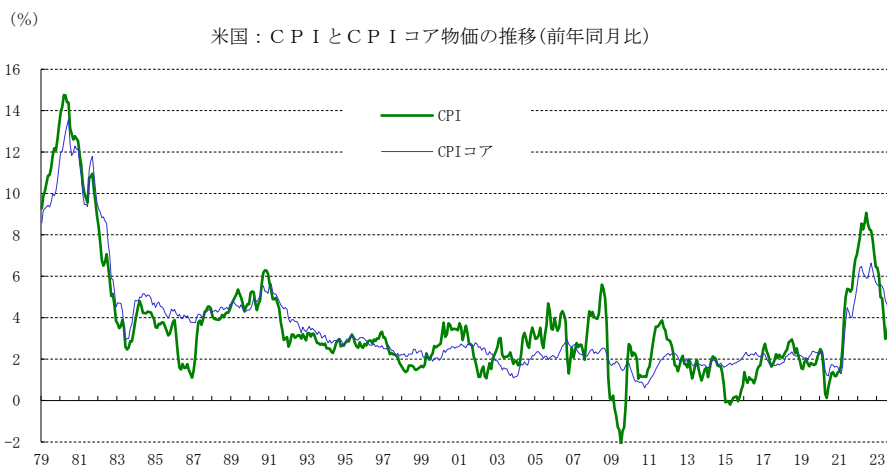
インフレの基調を示すCPIコアの安定には、前月比で+0.2%以下の低い伸びが継続する必要があるものの、23年中に0.2%以下となったのは6、7月の2ヵ月にとどまった。また、インフレの上昇モメンタムをみると、6ヵ月前対比年率では+3.2%（前月+2.9%）と上昇し、中期的なインフレ圧力が再び強まった。3ヵ月前対比年率では+3.3%（前月+3.4%）と低下したもののまだ高い伸びとなっており、短期的なインフレ圧力は強い。FRBは、依然としてCPIコアが2%目標に向けて低下を続けると確信できないとみられる。



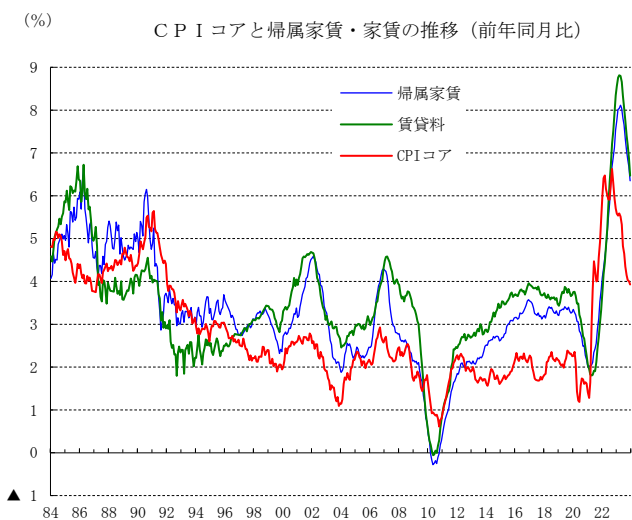
前年同月比では、総合が+3.4%（前月+3.1%）と上昇し、市場予想中央値+3.2%（筆者予想+3.1%）を上回った。食品が+2.7%（同+2.9%）と低下した。一方、CPIコアが+3.9%（同+4.0%）と低下したものの、市場予想中央値の+3.8%（筆者予想+3.8%）を上回ったほか、エネルギーが▲2.0%（同▲5.4%）と下落幅を縮小した。

CPIコアの内訳では、財コアが+0.2%（前月0.0%）と上昇した一方、サービスコアが+5.3%（同+5.5%）と低下した。財コアでは、家庭用耐久品・消耗品、中古車、自動車部品、娯楽用品、教科書、情報機器が下落したほか、衣料、新車等が低下した。一方、医薬品など医療用品が上昇した。

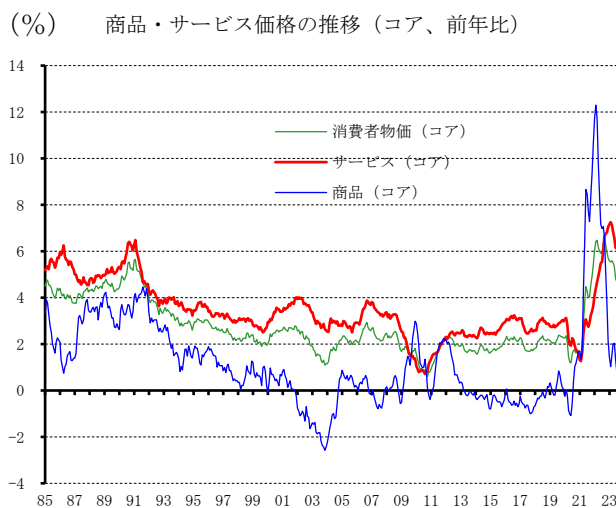
サービスコアでは、ホテル、医療保険、レンタカー、航空運賃、携帯が下落したほか、賃貸料、帰属家賃が高い伸びながら低下した。ただし、サービスコアは前年比+5.3%と高い伸びにとどまっており、引き続きCPIコアの鈍い低下の主因となっている。



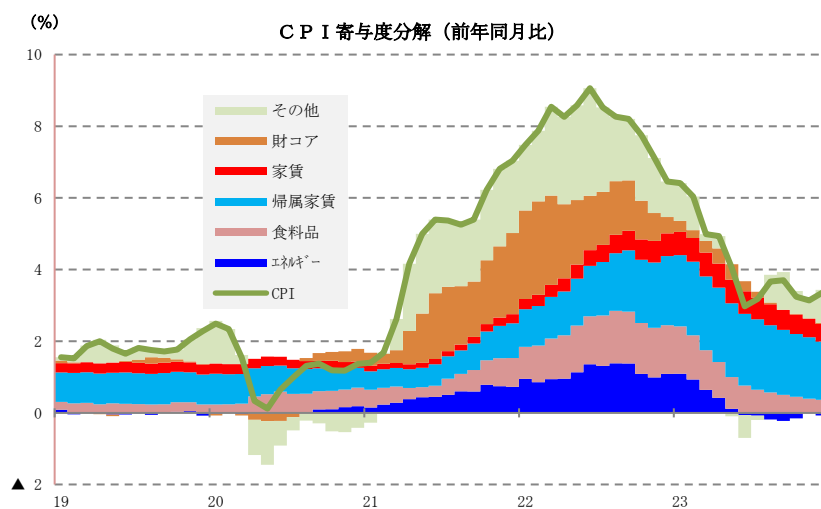
(出所) 米労働省



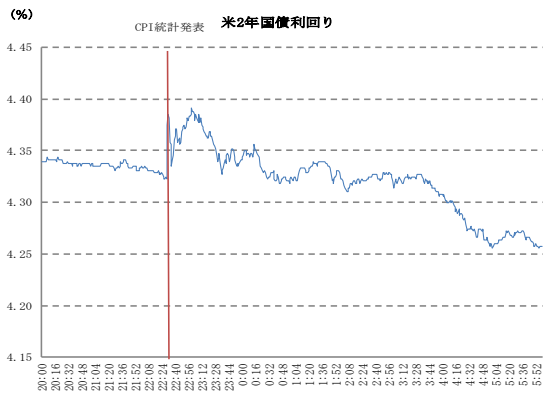
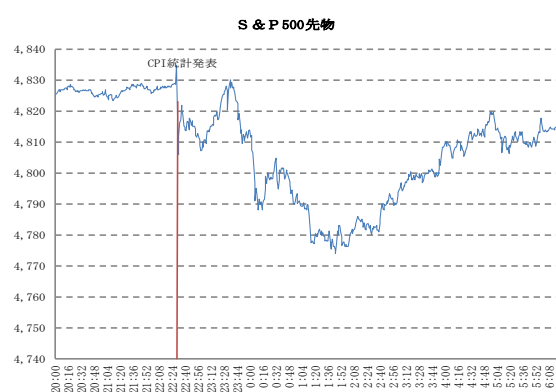
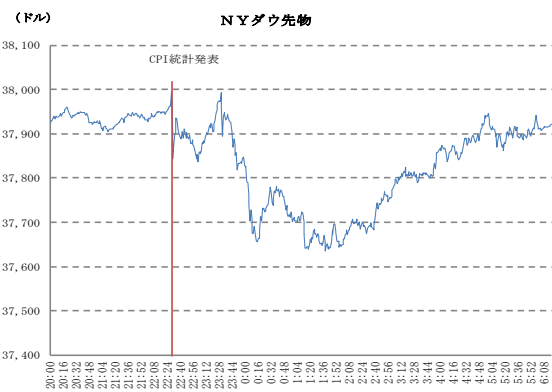
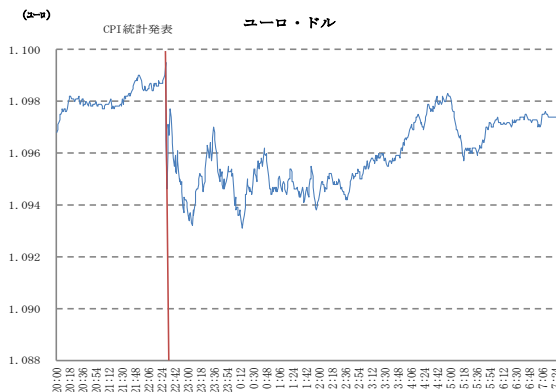
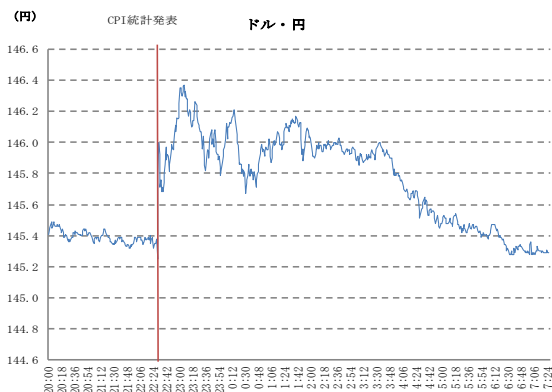
(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

